

# "Can't you master baby?"

## ペンテコステを覚えて

Andreas Rusterholz

表題の英語の言葉は、氣志團というグループのある歌からの引用です。和製英語とすら呼べないこのフレーズの意味は、不可解としか言いようがありません。しかし、この歌をじっくり聞いてみると、何となく分かるような気もしてきます。この歌のメロディーラインにはぴったり合っているので、耳に違和感なく入ってきます。意味不明なフレーズが、耳から“消化”され脳に入り込む。これもまた理解することの一形態ではないでしょうか。理解できるということ自体、ある意味で奇跡のようです。

新約聖書によると、およそ2000年前にそういう奇跡、すなわち「理解の奇跡」が起こりました（使徒言行録2章1節～42節）。エルサレムに滞在中の人々が「だれもかれも、自分の故郷の言葉で使徒たちが話をしているのを聞いた」のです。教養のない、アラム語しか話さないはずの使徒たちが、突然様々な国の「言葉で神の偉大な業を語った」のでした。以前に話が通じなかった人同士が、理解を妨げる壁が打ち壊されてしまったかのように、話が通じるようになりました。

このような現象を目のあたりにした当時の人々は、どう思ったのでしょうか。呆気にとられて、途方に暮れた者もいたし、弟子たちが新しいぶどう酒に酔っているとってあざける者もいました。聖書の箇所にある説明では、一同は「聖霊に満たされた」のでした。お互いに話が通じるようになったのは、努力がもたらした結果ではなく、与えられた贈り物です。聖書の場合、それは神の贈り物であり、神に関する理解は、神のこの“恵み”によってのみ得られるのです。ペンテコステはこの贈り物、つまり神の“恵み”である聖霊を覚える日です。

Can't you master baby? 日常の生活でも、話が本当に通じる相手を見つけるのは、奇跡なのかも知れません。話が通じるのなら説明は要らないし、通じなければ説明は役に立たない場合が多いのです。お互いの理解はそういう意味で、恵みによってのみ可能であり、祝うべきことなのです。

（文学部専任講師・宣教師）